

たまねぎレポート【第391号】



令和2年5月26日

阪南青果株式会社

社内報

4月の天候は、西日本と沖縄・奄美では、気温はかなり低かった。降水量は、北・東日本で多く、沖縄・奄美でかなり少なかった。東日本の太平洋側と西日本では、日照時間がかなり多かった。5月は、全国的に温暖で多湿の日が多く、西日本の玉葱産地の早生は、生育は前進化したものの、球締りは軟弱傾向となった。

気象庁の6～8月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北日本で平年並みまたは高い確率ともに40%、東・西日本と沖縄・奄美で高い確率50%と報告されている。今年の夏は、平年より気温が高く、暑い夏となりそうで、作物の高温障害に要注意である。月別予報は次の通り。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で

変わる。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

4月の建値市場の野菜の販売量は、218,506トン前年比96%、市場別には多少のバラツキがあるが、名古屋市場以外は前年比減であった。総平均単価はkg¥243前年比107%で、コロナウイルスの影響もあるが、いずれの市場も前年比高で推移している。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比92%、平均単価はkg¥215前年比102%。東京市場の販売量は前年比97%、平均単価はkg¥258前年比106%。名古屋市場の販売量は前年比100%、平均単価はkg¥237前年比109%。大阪本場は前年比93%の販売量で、平均単価はkg¥236前年比103%。福岡市場は前年比95%の販売量で、平均単価はkg¥193前年比113%となっている。

建値市場の4月の玉葱販売量は32,248トン前年比108%で、全国的にコロナウイルスの影響を受けたものの、家庭向けの巣籠り需要で、前月に続き札幌市場以外は前年比増となっている。総平均単価はkg¥58前年比51%で、

依然価格安が続いた。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は3,302トン前年比91%、平均単価はkg ¥53前年比49%。東京市場の販売量は14,258トン前年比108%、平均単価はkg ¥59前年比49%。名古屋市場の販売量は7,491トン前年比118%、平均単価はkg ¥63前年比59%。大阪本場の実績は4,629トン前年比117%、平均単価はkg ¥51前年比44%。福岡市場の実績は2,568トン前年比93%、平均単価はkg ¥63前年比61%となっている。いずれの市場も、平均単価は前年比大幅安であった。

北海物が在庫過多で市場を占有し、品余り状態が続き、生育前進化した府県産の早生物も順沢で、バトンタッチが大幅に後ずれし、大幅安となった。

日本農業新聞社の集計値によると、主要7地区の代表荷受7社の4月の主要野菜14品目の販売量は、98,172トン前年比1%減、平均単価はkg ¥159前年比15%高となり、4か月ぶりに前年比プラスに転じた。新型コロナウイルスの関係で、外出自粛要請を受けて家庭消費が販売をけん引。不足感のあったハクサイやキャベツ、ピーマンを中心に高騰した。低迷が目立ったのは土物でタマネギは前年比(5年平均比)45%安。北海道産の在庫が多く、府県産の出回りも潤沢。と報告している。販売量が前年比増の品目は、サトイモが前年比23%増、ジャガイモが18%増、ニンジンが9%増など5品目。前年比減の品目は、トマトが前年比19%減、ピーマンが16%減、レタスが12%減など8品目。価格が前年比高であった品目は、ハクサイがkg ¥142で前年比125%高、キャベツがkg ¥118で55%高、ピーマンがkg ¥594で47%高など12品目。前年比安の品目は、タマネギがkg ¥51前年比46%安、サトイモがkg ¥272で15%安の2品目だけとなっている。

東京都中央卸売市場の4月の野菜の入荷は、124,597トン前年比97%(前月比100%)。平均単価はkg ¥258前年比106%(前月比106%)で前月

に続き価格高となった。入荷が前年比増の品目は、ニンジンが前年比118%、バレイショが113%、サトイモが111%、タマネギが108%など5品目。入荷が前年比減の品目は、トマト・レタスが前年比84%、キャベツが93%、ナスが94%など10品目。販売単価が前年比高の品目はハクサイがkg¥188で前年比254%、キャベツがkg¥139で155%、ホウレンソウがkg¥559で132%など12品目。前年比安の品目は、玉葱がkg¥59で前年比49%、サトイモがkg¥288で96%の2品目だけとなっている。

東京都中央卸売市場の4月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	124,597	96.6	100.2	258	106.4	105.7
た ま ね ぎ	14,258	108.1	116.5	59	48.6	77.6
キ ャ ベ ツ	17,728	92.6	96.8	139	155.4	149.5
だ い こ ん	9,487	95.0	92.8	112	116.3	145.5
は く さ い	6,485	101.3	80.3	188	254.1	182.5
ば れ い し ょ	10,013	112.7	108.4	158	119.8	125.4
レ タ ス	5,755	84.4	84.6	219	110.1	117.7
に ん じ ん	9,266	118.1	148.0	158	130.1	90.3
き ゆ う り	6,932	94.5	110.6	288	125.9	81.8
ト マ ト	6,132	84.1	112.1	412	114.3	90.0
ね ぎ	3,635	97.9	81.8	301	112.3	133.2
か ぼ ち ゃ	2,192	87.3	81.7	176	105.9	133.3
な が い も	1,068	111.5	97.5	320	94.6	98.2

れんこん	289	71.4	55.2	888	135.4	142.5
んにく	280	98.2	91.2	947	100.4	117.8

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の4月の玉葱の入荷量は14,258トン前年比108%（前月比117%）、前月に続き前年比・前月比とも大幅増であった。在庫増の北海物の入荷が潤沢であったほか、生育前進化の佐賀・熊本・長崎の早生物が順調に入荷し、需給バランスが崩れ市況は続落歩調となった。コロナウイルスの感染拡大防止対策による政府の外出自粛要請で、家庭需要が活発化したものの、外食需要が停滞したことや、加工需要が減少したことで、深刻な品余り現象が到来した。市場在庫は日毎に増加し、仮置き場は満杯状態が続いた。3月～4月は野菜の価格は上昇に転じたものの、玉ねぎだけは取り残されて続落し、平年の半値に値下がりした。産地別の入荷量は、北海物が7,054トン前年比120%、占有率は50%前年比5ポイントアップ。佐賀物が6,287トン前年比104%、占有率は44%前年比2ポイントダウン。熊本物が281トン前年比104%、占有率は2%前年と同じ。長崎物が250トン前年比161%、占有率は2%前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg¥59前年比59%（前月比78%）。産地別では、北海物はkg¥52前年比40%。佐賀物はkg¥63前年比55%。熊本物は¥101前年比66%。長崎物はkg¥91前年比70%となっている。

5月に入り、佐賀物主力の販売に移行したが、主力のJA物は乾燥不良によるカビや腐敗の発生があり、荷動き鈍化で売れ残りが増え、苦戦が続いた。千葉物は少量ながら品質良好だったが、買手に評価されず値が出なかった。終

盤を迎えた北海物はそれなりの動きだったが、中旬には消費地冷蔵物が出回る予想で、新物へのバトンタッチの後ズレが、相場の足を引っ張ると懸念された。月半ばには、佐賀物の乾燥は改善されたものの、腐敗が散見され、入荷が始まった兵庫物に比べ見劣りした。北海物の冷蔵物は予想より少なく、それなりに捌くことが出来た。破格の安値市況を受け、JA佐賀では5月末まで緊急出荷調整を発動している。北海物が減少することもあり、市況の回復を期待している。

1日～20日の販売量は8,558トン前年比96%、平均単価はkg¥67前年比53%。産地別では、北海物は4,759トン前年比102%、平均単価はkg¥53前年比41%。佐賀物は3,142トン前年比93%、平均単価はkg¥82前年比67%。長崎物は214トン前年比153%、平均単価はkg¥99前年比78%となっている。

名古屋市場

名古屋市中心卸売市場の4月の玉葱販売量は、7,491トン前年比118%（前月比104%）で4月も前年比、前月比ともに増となった。主力は北海物で販売量は5,436トン、前年比128%、占有率は73%で前年比6ポイントアップ。愛知物の販売量は1,903トン前年比105%、占有率は25%前年比3%ダウン。総平均単価はkg63前年比59%（前月比82%）で、相場はチリ貧の推移で前年比・前月比ともに安値となっている。産地別では、北海物はkg¥54前年比54%、愛知物はkg¥85前年比75%となっている。

5月に入って、地場産地の愛知物の入荷が最盛期を迎えたが、玉葱の荷動き低迷でチリ貧相場が続くなか、球流れは大粒で2L・Lで80%を占め、地産地消の宣伝販売も効果なく、在庫過多を招き、20kg高値¥1,000～安値¥200の投げ売りが発生する状態に追い込まれた。北海物は、小売店向けの前売りは殆どなく、加工筋に向ける以外は手持ち在庫となった。現在は、愛知物主力

の販売だが、品種はアドバンスに移行したものの、相変わらず2L中心の球流れで、引き合いの強いLが少ない。兵庫物は、大阪市場が高く、値決めに苦労している。北海物は、CA貯蔵の契約物で今週で終了する。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の4月の玉葱の販売量は、4,620トン前年比117%(前月比110%)で前年比・前月比とも2桁の増加となっている。在庫過多の北海物と兵庫の早生物が大幅に増加した。佐賀・長崎物の入荷は、前年を下回った。主力は北海物で販売量は、2,499トン前年比166%、占有率54%前年比16ポイントアップ。佐賀物は904トン前年比70%、占有率20%前年比13ポイントダウン。兵庫物は716トン前年比141%、占有率は15%で前年比2ポイントアップ。長崎物は475トン前年比74%、占有率は10%で前年比6ポイントダウン。総平均単価はkg¥51前年比44%(前月比70%)でギリ貧相場が続いた。産地別では、北海物はkg¥40前年比33%。佐賀物はkg¥59前年比54%。兵庫物はkg¥61で前年比51%。長崎物はkg¥79前年比69%となっている。

5月に入り、兵庫物主力の販売に移行したが、兵庫、佐賀、北海物いずれの産地の入荷も潤沢で、荷余り状態が続き、ギリ貧相場となった。プライスリーダーとなる兵庫物のL・20kgが¥600~500の安値となり、生産者手取りが皆無の状態となった。月半には、JA佐賀が緊急出荷調整を実施したことや、北海物が入荷が終盤になったことで、市況は回復に転じた。昨今では、全国市場に先駆けて、品薄高が続き、兵庫物のL・20kgが¥2,500~2,100に値上がりしている。此の先も堅調相場が続くようだ。

大阪本場の1日~19日の入荷量は2,627トン前年比104%、平均単価はkg¥41前年比58%。産地別では、兵庫物は1,502トン前年比138%、平均

単価はkg ¥41前年比58%。北海物は557トン前年比446%、平均単価はkg ¥51前年比47%。佐賀物は446トン前年比38%、平均単価はkg ¥34前年比50%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の4月の玉葱販売量は、2,568トン前年比93%(前月比99%)で、前年比、前月比とも減となっている。内容は前月に続き北海物が大幅増となったが、佐賀・長崎の九州産の新物が前年を大きく下回った。主力の北海物は1,289トン前年比133%、占有率は50%前年比15ポイントアップ。佐賀物が732トン前年比69%、占有率は29%前年比9ポイントダウン。長崎物が411トン前年比91%、占有率16%で前年と同じ。総平均単価はkg ¥63前年比61%。(前月比75%)。産地別の平均単価は、北海物がkg ¥65前年比56%、佐賀物はkg ¥51前年比53%。長崎物はkg ¥76前年比78%となっている。

5月に入って、佐賀物主力の販売となったが、荷動きが鈍く市況はギリ貧相場が続いた。今年の佐賀物は、GW明けの入荷も例年の様な急増はなく、予想を下回る状態だった。乾燥不良や品傷みが散見され、長崎物に比べ品質的に見劣りし、プライスリーダーにはならなかった。JA佐賀では破格の安値市況を受け、月半ばから緊急出荷調整を実施したことで、昨今の市況は、品薄高となり、平年並みの水準に回復しつつある。

1日～19日の販売量は1,334トン前年比81%、平均単価はkg ¥45前年比57%となっている。昨今の市場は、特にL・Mの引き合いが強く、日々値上がりしている。

5月25日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷110トン コロナウイルスで競売自粛、相対売り

北 海 20kgDB2L ¥1,100～ L大 ¥1,400～ L ¥1,200～

北 海(CA)20kgDB2L ¥1,700～ L大 ¥1,700～ L ¥1,400～

佐 賀 20kgDB2L ¥1,000～ L ¥1,200～ M ¥1,000～

【太田市場】 入荷219 トン 強い

佐 賀 20kgDB2L ¥1,100～1,000、L ¥1,600～1,500、M ¥1,600～1,500。

愛 知 20kgNT2L ¥900 ～ 800、L ¥1,500～1,400、M ¥1,500～1,400。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,300～1,200、L ¥1,800～1,700、M ¥1,800～1,700。

栃 木 20kgDB2L ¥1,000～ 900、L ¥1,600～1,400、M ¥1,600～1,400。

【名古屋北部】 入荷152 トン 弱保合、

愛 知 20kgNT2L ¥800 ～ 700、L ¥1,500～1,300、M ¥1,500～1,300。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,300～1,200、L ¥2,300～2,200、M ¥2,100～2,000。

北 海 20kgDBL大 ¥1,200～1,000、

【大阪本場】 入荷73 トン 強保合

兵 庫 10kgDB2L ¥1,000～ 700、L ¥1,300～1,100、M ¥1,300～1,100。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,600～1,200、L ¥2,500～2,100、M ¥2,500～2,100。

大 阪 20kgDB2L ¥1,400～1,200、L ¥1,800～1,700、M ¥1,800～1,700。

和歌山 20kgDB2L ¥1,200～1,000、L ¥1,800～1,700、M ¥1,800～1,700。

【福岡市場】 入荷59 トン 強い

北 海(CA)20kgDB L大 ¥1,800～

長 崎 10kgDB2L ¥700 ～ 600、L ¥1,200～1,000、M ¥1,200～1,000。

佐 賀 20kgDB2L ¥1,000～ 800、L ¥1,800～1,700、M ¥2,000～

供給(産地)の動き

5月前半の玉葱市況は、4月に続き北海物の在庫増、コロナウイルスによる業務・加工筋の需要減に加えて、府県産地の早生の豊作で、需給バランスが崩れ、深刻な品余り現象となった。佐賀、兵庫の主産地の生産者手取りは、出荷経費にも満たない安値に転落した。月後半には、JA佐賀の緊急出荷調整の実施や北海物の出回り減に加え、府県産地の中早生・中晩生の生育に変化が現れ、豊作型から平年作が精々の作況に変わりつつあり、出回り量は予想外の減少となった。出回り減から、昨今の市場は品薄高相場に転じ上昇気流に乗っている。産地関係者は、失望のどん底から明るさが見え始めたことで、中晩生の市況の行方を凝視している。佐賀、兵庫、愛知の大型産地が減反傾向にあることや、作柄が平年作または以下に悪化することになれば、輸入物の減少や、学校給食の再開を始め徐々ではあるが外食需要回復なども見込まれ、農繁期を迎えた6月市況は品薄高傾向が続きそうだ。

府県産地、

佐賀では、市場出荷の費用にも満たない5月の安値相場を反映して、5月の産地相場は20kg裸値・2L¥50、L・M¥100、S¥50、再生産価格の10分の1に暴落した。玉葱生産者の大幅赤字を懸念したJA佐賀では、廃棄を含めた緊急出荷調整に乗り出し、1万トンの廃棄を含む出荷先送り措置を発動した。時既に終盤となった北海物の出回り減と、当を得たJA佐賀の出荷調整で、市場相場は急速に回復し、昨今では前年同期を上回る水準に値上がりしている。此の先、中晩生の主要産地の減反、減収傾向で品薄高相場が続くものと、生産者を始め産地関係者は期待している。ペト病の二次感染は前年並みだが、腐敗病の発生はやや多い。

淡路島は中晩生の主力産地で、作付面積比率は早生種21%、中生種59%、晩生種19%、赤玉1%となっている。早生は増反で昨年に次ぐ豊作であったが、続く中早生種は減収傾向である。昨今、主力の中晩生の生育に変化が発生している。春の温暖な気候を反映して、生育は徒長傾向であったこともあり、色褪せが10日前後も早く、なかには既に枯上がっている圃場もあり、豊作型から平年作または不作へと悪化している。特に、水捌けの悪い乾燥不良の圃場に、病害と枯上がりが見られる。温暖多湿の影響で根の張りが浅かったのかも知れない。早生種のレクスターまでは球肥大良く生育前進化で、出荷は前進化し、5月前半迄の出回り量は前年を上回った。中早生のアンサーは平年作。中晩生のターザン、晩生のモミジの作柄は平年作または不作の可能性が濃くなっている。圃場格差も大きく、概しては風あたりの強い平野部が今一つで、水捌けの良い山間部は順調と言う。中晩生の作柄悪化で、今年の短期貯蔵のコログシは少なくなると予想され、生産者の多くは産地相場は¥1,000が近いと見ている。

5月20日の定点調査では、生育は乾燥による葉先や下葉の枯れ上がりに依り、草丈・葉数は平年より低下、細菌性病害は昨年より多く平年とほぼ同等、晴天が続いたことで、細菌性病害の進行は停滞している。と報告されている。

北海道産地

ホクレンによる北海道玉ねぎの今年度産の品種別作付け動向調査では、総面積は12,685ha前年比98.5%。極早生は4,594ha前年比98%、早生は4,594ha前年比96%、中生は6,617ha前年比102%、晩生は367ha前年比85%と報告されている。

道庁の5月15日発表の生育状況では、石狩地方は平年比で、草丈長く、葉数平年並み、葉鞘太く生育はやや進んでいる。空知地方は、移植はやや早く終

了し生育は順調。草丈・葉数・葉鞘径は平年並み。上川地方は、移植の終了は5月14日でやや遅れたが、草丈・葉数・葉鞘径ともに平年並み。オホーツク地方は、移植終了は5月7日で平年並み、草丈・葉鞘径も平年並みで生育は総じて平年並み。と報告されている。

道東の冷蔵庫には夏期販売用にかなりの在庫がある。と聞く。

輸入動向

4月の輸入は、速報値で16,725トン前年比65%と減少している。3月に回復傾向となったものの、新型ウイルスの感染予防に依る外出自粛で加工・外食需要が低迷した事に加え、北海物の原料在庫が過多となり、日本のマーケットが続落歩調となり、輸入が減少した。主力の中国物の輸入量は15,666トン前年比65%、ニュージーランドが865トン前年比55%、オーストラリヤが175トン前年比24%、タイが20トン前年比80%となっている。

中国、産地は雲南省から新物の江蘇・山東省と続くが作付け作柄は前年並みと聞く。現在、コロナウイルスの影響などで、自国内外とも需要が減退し、在庫増を反映して集荷業者など同業間の競争激化で現地価格は大幅に値下がりし、集出荷業者は大損害を抱え苦しんでいる。例年、大口発注の有る韓国からの引き合いもないと言う。現在の日本向け提案価格はムキ玉、20kg・C&F・\$4.00で近年にない安値となっている。日本向け主要産地の甘肅省の次シーズンの作付けは、黄玉減反、赤玉増反の模様。

ニュージーランド、在庫多く現在の提案価格は、20kg・C&F・¥800。近年にない安値である。

6月の市況見通し

5月は近年にない安値市況となったが、今週に入って市況は急速に回復して

いる。北海物の出回りが急減したことと、府県産地の早生の生育は前進化した
が、後続の中晩生の生育は停滞気味で、作柄は豊作予想から平年作に段落
したほか、輸入物も大幅減となり、出回り量が急速に減少し、品余りが解消され
たことが、市況回復の原因である。昨今、外出自粛要請が解除されたものの、
人の往来の急速な回復は望めず、訪日客の復帰も尠ならずで、外食需要の回
復はまだまだ先になると予想される。6月市況は、4、5月の反動高となり、府県
産20kg・L¥2,000中心の相場展開を予想している。此の先、府県産地では
中晩生の収穫期を迎えるが、平年作を下回ることにでもなれば、更に一段高の
品薄高が続くことになる。従来から、7月の土用前には暑さによる食欲減退で、
消費が減少する傾向にある。気象庁では、今年の夏は平年より暑いと予報して
いる。6月の品薄高に気を許さず、環境変化を考察し、適切な対応を思考する
ことが大切である。(了)